

「大田区多文化共生推進検討会のまとめ」について

1 これまでの経過

大田区多文化共生推進協議会は外国人区民、国際交流団体、学識経験者等を構成メンバーとして、これまで5期10年にわたり開催され、多文化共生社会の実現に向けた具体的な課題を協議し、区に対してその解決のための提言を行ってきた。

社会状況が大きく変化する中、令和3年度は検討会の形式をとり、これまでの提言の検証を行うとともに、今後開催を予定している第6期協議会のあり方を検討した。

2 検討会の概要

(1) 開催回数 2回

第1回：令和3年11月8日

第2回：令和4年1月28日

(2) 構成メンバー

第5期多文化共生推進協議会会長、同副会長（2名）

(一財) 国際都市おおた協会事務局長、(公財) 大田区産業振興協会事務局長

大田区観光・国際都市部長、観光課長、産業振興課長

3 検討内容

(1) 「大田区多文化共生推進協議会」10年間の振り返り

(2) 今後の取組に向けた方向性の整理

(3) 第6期協議会のテーマ案の設定

詳細は別紙のとおり。

大田区多文化共生推進検討会のまとめ

1 検討会の概要

(1) 開催目的及び背景

5期10年にわたる「大田区多文化共生推進協議会」の提言内容の検証を行うとともに、検証結果を次期協議会のテーマ（案）等に反映することを目的に設置

背景

- 外国人区民の増加・多国籍化や、新たな在留資格（特定技能）の創設等に伴い、「多様性に富む包摂型社会」実現の要請が顕著
- 加えて、デジタル化の進展や自然災害の激甚化等、社会を取り巻く環境の変化を踏まえて、総務省が「地域における多文化共生推進プラン」を令和2年度に改訂
- 第6期大田区多文化共生推進協議会では、令和6年度に予定される『国際都市おおた』多文化共生推進プラン（以下「プラン」という。）の改訂を見据え、コロナ禍による影響や、国のプラン改訂、その他都や区を取り巻く状況の変化を踏まえて検討テーマ（案）を選定し、議論を尽くしたうえで提言を行うことが必要
- 平成29年3月に策定された「国際都市おおた宣言～地域力で世界にはばたく～」を基軸に据えて、多文化共生のあり方を検討することが不可欠
- 平成29年12月に「一般財団法人国際都市おおた協会」が設立され、「国際都市おおた宣言」を具現化させるべく、国際交流、多文化共生並びに地域の活性化に寄与する諸活動を推進

(2) 開催状況

開催回	主な内容
第1回 (11/8)	○令和3年度 数値で見る国際都市おおた ○第1～5期の多文化共生推進協議会の提言の振り返り
第2回 (1/28)	○第1回検討会の確認事項に対する回答 ○第6期協議会のテーマ（案）選定 ○第6期協議会の進め方

(3) 検討会メンバー

第5期多文化共生推進協議会会長、副会長2名、（一財）国際都市おおた協会事務局長、（公財）大田区産業振興協会事務局長、大田区観光・国際都市部長、観光課長、産業振興課長事務局長；国際都市・多文化共生課

※（一財）国際都市おおた協会は以下、「協会」という。

2 「大田区多文化共生推進協議会」10年間の振り返り

- 5期10年間の提言内容とその取組み状況を整理したうえで、提言中、現在未達成で、今後さらなる取組が必要な事項を抽出
- 抽出した事項を、「教育」、「情報提供」、「防災」、「地域活動」並びに「観光・産業」の各分野別に分類し、通底する共通の課題を抽出・整理

(1) 提言と区、協会の取組状況

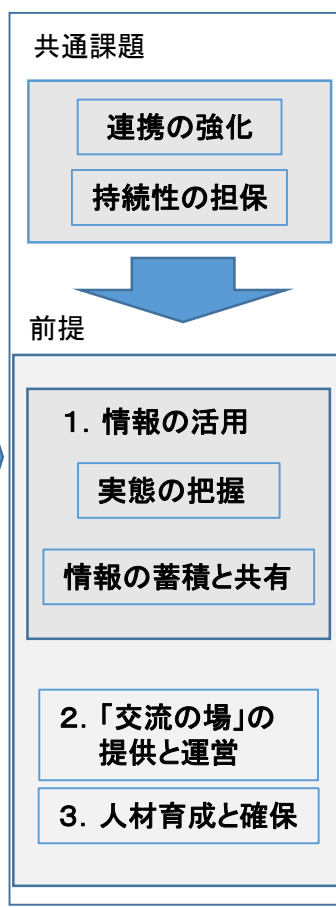
主な提言	区と協会の主な取組状況（*協会の取組）	分野
日本語学習支援の充実（第1期）	・ボランティア日本語教室の活動支援 ・日本語教室の拡充、「日本語でスピーチ」の実施*	教育
子育て世帯の支援（第1・3・4期）	・日本語講座「学校プリントを読む」の実施* ・「小学校入学前オリエンテーション」の実施*	
多文化共生の理解促進（第1期）	・国際都市おおた大使・国際交流員（CIR）との交流 ・18色の国際都市事業	
外国人区民の学校授業の参加（第3期）	・「国際理解教育」として小・中学校の授業にCIR・国際都市おおた大使が参加 ・大使がわくわくスクールに講師で参加	
多言語による情報提供（第3・4期）	・各学校で必要に応じて「学校のおしり」等の多言語化 ・「外国籍保護者のための小学校案内」を6言語で作成*	情報提供
情報提供の多様化（第1・2・5期）	・区及び協会のSNSによる情報発信 ・区のHPの自動翻訳に、ネパール語・ベトナム語を追加	
micsおおたの活用（第1期）	・国際交流団体にロッカー、交流スペース等を提供。 ・様々な多言語資料をmicsの多言語相談窓口を集約	
イベント等周知方法の多様化（第3期）	・「Ota City Navigation」の配布場所の増設 ・HP、SNSでイベント・講座情報を発信 ・国際交流団体等にイベント情報の周知を依頼	
多言語による生活支援（第3期・第4期）	・「Ota City Navigation」のやさしい日本語の導入 ・「くらしのガイド」にやさしい日本語・ネパール語・ベトナム語を導入 ・多言語通訳サービス（タブレット・三者間通話）の導入	防災
キーパーソンとのネットワーク構築（第5期）	・「国際交流団体」、「国際都市おおた大使」に依頼し、新型コロナウイルス対策や台風等災害情報等を拡散。	
防災・災害支援（第2・4期）	・防災情報をポータルサイトやアプリで発信 ・外国人区民を含めた防災訓練の実施 ・災害時外国人支援ボランティア講習会の実施*	
活躍の場の提供（第3・4・5期）	・国際イベントにおける「体験・交流」要素の充実 ・「介護の日本語講座」を実施* ・「日本語でスピーチ」の実施*	
日本人区民との交流の場の提供（第2・4期）	・「18色の国際都市事業」、「多文化交流会」*、 ・「ホームビジットイベント」*等の実施 ・海外姉妹都市（セラム市）、友好都市等（北京市朝陽区・大連市）との交流会	地域活動

※ことわりの無い限り外国人区民に対する提言である。

(2) さらなる取組が必要な事項

分野	取組事項
教育	・区と外郭団体との連携拡大 ・関係部局との連携強化 ・不就学を生まない環境づくり ・保護者も含めた「子どもの日本語教育」支援の充実
情報提供	・キーパーソンの発掘・ネットワークづくり ・情報提供手段の多様化、情報誌の内容・構成並びに配架場所の検討
防災	・「誰一人取り残さない」ための防災の仕組みづくり ・地域との連携・担い手となりうる外国人区民の発見・育成
地域活動	・キーパーソンの発掘、地域との連携 ・外国人区民と日本人区民の「交流の場」づくり（多国籍区民会議等）
観光・産業	・産業・観光分野に関する取組の一層の充実 ・受入希望団体に対する支援の充実

(3) 通底する課題



3 検討会での意見と取組の方向性

上記検討会における議論を踏まえて「取組の方向性」を整理し、共通「キーワード」を抽出

分野	主な意見
全体	○行政はもとより、日本人区民や民間企業・大学等、多様な主体との連携を拡大・促進 ○個人情報の取扱に注意しつつ、上記各主体との情報共有を図る等、効果的にデータを活用
教育	○関係部局や、外郭団体との連携・情報共有の仕組みを検討・構築 ○「就学状況調査」の分析結果を踏まえて、「不就学を生まない環境づくり」を一層推進
情報提供	○対象者に直接情報が伝わる「プッシュ型の情報発信」方式の導入・拡大 ○外国人区民の多くが使用するSNSやコンビニの活用等、受信者目線での情報発信を工夫
防災	○緊急時は通常時と異なり、「確実に伝わる情報発信」が必要なことから、「やさしい日本語」に固執せず、「多言語による情報発信」についても前向きに検討 ○外国語対応可能な「災害時支援ボランティア」の育成・確保及び自治会・町会をはじめとする地域との連携、情報伝達方法等について、制度設計・整備を検討
地域活動	○「"普段着"の国際交流が出来る場」づくりを展開 ○外国人区民が住み続けたいと思う「選ばれる大田区」を目指した参加型の地域社会づくり推進 ○外国人コミュニティの探索・把握（外国人を、客体でなく地域活動の主体と位置づけ）
産業	○外国人材が置かれた労働環境等の実態を把握 ○外国人も日本人と同様・同等に働き、無理なく生活が送れる環境づくりを推進 ○多様性はイノベーションの鍵
観光	○「マイクロツーリズム」の観点から、区内在住の方にも足を運んでもらえる観光資源の調査 ○区外の外国人にも興味を持ってもらえる内容を盛り込んだ観光情報の発信 ○外国人ボランティアにも「おもてなしを含めた観光まちづくり」に協力してもらえる体制の構築

- #### キーワード
- 把握する 実態の詳細な把握
 - 発信する 効果的情報発信（受信者目線重視、プッシュ型の発信）
 - 連携する 多様な主体と連携・協力
 - 実感する 環境改善を肌感覚で実感（人づくり、「場」づくり等）
 - 共有する 地域資源（観光資源等）を共有・補完

4 「第6期大田区多文化共生推進協議会」に向けて

(1) 方向性

○プランとの関連性に留意し、観光・産業・多文化共生の3分野毎にバランス良くテーマ設定

○検討会における諸意見から「共通する項目」を抽出し、プランの基本目標との関連性に照らしてテーマ設定

○本検討会での振り返りを契機に、現場の声に重きを置いた議論となるよう、関係部局に対して積極的な参加を要請

(2) 次期テーマ案と関連項目及び現プランとの関連性

第6期協議会のテーマ案		
多文化	観光	産業
<ul style="list-style-type: none"> ★外国人区民が参加しやすい地域社会づくり（「外国人に選ばれる大田区」を目指して） ★来日直後など日本の風習・制度等に対する親子への支援 ★「おおた国際交流センター」の活用方法及び運営方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ★多文化共生社会における観光振興のための環境づくり ★来訪者及び外国人・日本人区民に対する観光資源周知の取組 ★多文化共生社会における「立ち寄り型観光を含む観光」のスタイルを検討 	<ul style="list-style-type: none"> ★多文化共生社会における「国際都市おおた」としての海外企業との交流促進 ★「国際都市おおた」の魅力につながる区内産業の魅力発信 ★多文化共生社会における「働きやすい環境づくり」の検討

共通する関連項目

- ★多様な主体との連携
- ★現状・実態の把握
- ★情報の発信と共有方法
- ★外国人が参加したい・できると実感できる環境づくり
- ★グローバル人材の育成
- ★安心・安全の確保（防災）

基本目標(プランから)

- 外国人と日本人が地域生活において、対等な立場でよりよい関係を築けるように多文化共生意識を広げます
- 外国人も地域の中で安心して暮らせるまちをつくります
- 外国人も主体的に参画する「国際都市おおた」を推進します

○次期プランの方向性とも関連するよう、情報共有しながら協議会を運営する。